

全社員が DX 推進に取り組むための 自部門で実践する DX入門セミナー

【参加対象】・管理職・リーダーの方
・各部門のDX担当、業務改善担当の方
・全社のDX推進担当者

■ セミナーのねらい

コロナ禍で世界の国々に比べて日本社会のデジタル化の遅れが顕著になり、日本政府もデジタル庁を発足させ、社会のデジタル化をより進めようとしています。そのような中、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進が企業の喫緊の課題にもなっています。しかし、DXという言葉だけが先行し、実際にどのように自社で DX 推進すればよいのかわからないというのが実情ではないでしょうか。

本セミナーでは、既存のアナログ業務を単純にデジタル化するだけではなく、最新のデジタル技術を用いて、会社そのものを変革し、これからの時代に生き残り、成長していくための真の DX とは何か。そして、真の DX をどのように推進していけばよいのかをワークを通して学びます。

また、最新のデジタル技術やその活用例に触れることで、自社・自部門にどのように活用すればよいのかのヒントを得ることができます。

■開催日時

2025年 7月 8日(火)

2025年 12月 10日(水)

【時間】 9:45 ~ 16:45

■開催形式 Zoom による
オンラインセミナー

■参加料 (税込)

●法人会員…62,700 円/1 名

●会 員 外…74,800 円/1 名

参加者の声

- 最先端の技術を知ること、自社で活かせることの可能性が広がりました。また、他社の方のお話もお聞きして、とても参考になりました。どのようにDXを進めていくか具体的なイメージができました。
- 「DX」に対する漠然としていたイメージを整理することができた。DX推進に必要なデジタル技術の概要を俯瞰することができた。また、実際に施策としてどう進めていけば良いかイメージを持つことができた。
- デジタル技術について代表的なところを確認できたことがよかったです。「できるといいな」と感じていることは、「大抵のことができる」と理解でき、技術を知らないだけであると思った。また、便利というメリットだけでは、変更への対応へのモチベーションは上がらないことも実感できました。

- DXに取り組んでいくための取っ掛かりとして、どんな風に進めていくのが良いかについて大枠を学ぶことができた。
- 突然任命されたDX推進担当者として、デジタル技術を駆使して業務に役立てていくのだらうというなんとなくのイメージのまま業務をしておりましたが、本日のセミナーを受講し、非常に目的とイメージがはっきりしました。
- 受講する前は本当にDXって何？、わからない、怖いという状況の中参加していたが、本セミナーに参加することにより、その抵抗感がなくなった。攻めのDX、守りのDXの具体例などDXに関する詳細内容を非常にわかりやすく説明頂き、ワークも取り掛かりやすかった。



■講 師 (敬称略)

金子 雄太郎 オフィス・ジガー 代表

1981年生(神戸市出身)。立命館大学卒業後、研修運営スタッフ(兼アセッサー)として従事し、テクニカル系講師、ヒューマンスキル系講師の所作を観察し、徹底して学ぶ。その後、IT系ベンチャー3社でシステムエンジニアを経験。アプリ・インフラ、要件定義から実装テスト、全分野を満遍なく経験。

2012年に独立し、企業研修講師を中心に、執筆、キャリアカウンセリング、コーチング等を実施。シリコンバレーでの英語学習アプリのプロダクトマネジメント、ベトナム・ホーチミンでのオフショア開発の立ち上げおよびプロジェクトマネジメントといった海外での活動も経験。現在は、DXと生成AIのコンサルティング、研修・セミナーを中心に活動を行う。

I. 基礎知識編

1. コロナ禍でわかったデジタル化の必要性

- (1) 新型コロナで明確になった日本の弱点
- (2) 現在は第4次産業革命の時代
- (3) 常識が非常識に、非常識が常識になる時代
- (4) これからの社会がどのようなものか 国が目指している近未来の日本
- (5) 「2025年の壁」と今の日本の姿
- (6) 2040年の未来予測
- (7) 現状からの延長線で未来を考えてはいけない

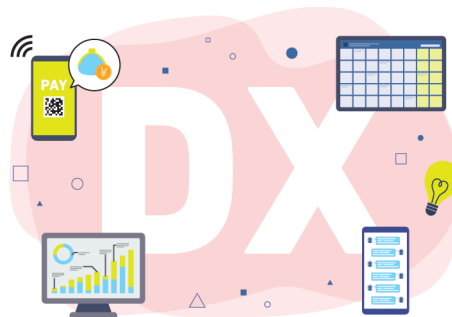
2. デジタルトランスフォーメーション (DX) とは何か

- (1) 劇的な変化を起こす DX が企業の生死を分ける
- (2) コロナ禍で DX 推進も加速されている
- (3) デジタル化が真の DX ではない！ 真の DX とは？
- (4) DX を成功させる5つのステップ
- (5) 時代に合わせて企業理念を実現するシンカサイクル
- (6) DX がうまくいかない7大疾病

ワーク 自社がどのように DX に対応できるか考える

3. 既存の産業を脅かすデジタル技術と他社導入事例

- (1) 業務を自動化する RPA
- (2) システムの内製化を促進するノーコード・ローコード
- (3) 5G がもたらすネットインフラの革新
- (4) 人工知能 (AI) はどこまでできるのか
- (5) いま、SF の世界が現実になりつつある！ 最新ロボット事例と産業界での活用
- (6) 工場の可視化をすすめる IoT とデジタルツイン
- (7) なんかに怪しそうと思われる ブロックチェーンが未来の基盤技術になる！？
- (8) ビジネスのあり方を変える仮想現実 (VR)・拡張現実 (AR) の世界
- (9) いままでの常識が非常識になる 3D プリンタの世界



II. DX 推進編

1. DX 推進の心得

- (1) 目に見える範囲のデジタル化では DX は失敗する
- (2) シンカサイクルと DX を成功させる5つのステップの対応
- (3) トランスフォーメーション (変革) とは
- (4) DX は CX (会社を作り変えること) である
- (5) IT が得意な若手が推進するのではなく、トップが推進しなければ DX は実現できない
- (6) DX 推進のビジョンをトップの言葉で社員に語れ
- (7) 自社の未来を脅かす可能性を洗い出す
- (8) 未来を予想し、今はない課題を想像する
- (9) 課題を解決するために自社のリソースや要素技術で何が使えるか考える

ワーク DX 推進を行う目的やビジョンを考える

2. 第1歩はデジタイゼーション (デジタル化) から

- (1) まずはアナログデータをデジタル化することを考える
- (2) ほぼすべての業務がデジタル化できる！
- (3) 業務マニュアルがこれからの時代の切り札になる
- (4) 業務フローチャートで業務の流れを可視化する

ワーク 自社において何がデジタル化できるか考える

3. 自部門で DX をすすめるためには

- (1) DX を阻害するものは何か？
- (2) 自部門で DX 推進するためのチェンジマネジメント方法
- (3) DX 推進人材増殖計画のススメ

4. 実践ワーク

※自社の状況に合わせた DX 推進テーマについて企画検討を実施する



※内容は、変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

